

911.3  
ゴ  
夏

穴季  
名寄

合類俳諧忘見

夏

三月四月

十六

王權現  
ヲ崇ム  
日淺艸寺境内三社權現之祭也三社ハ桧熊濱成竹成兄弟  
三人ヲ祭ル此日内處ニテ菴ヲ易ク賣ル故ニ菴市ト云  
信宿駕迎め奉の御宇拭ニ  
寺僧各白巾を以て拭山

修  
千手念仏

當朱雀通北限舟岡南 千本引接寺間广堂  
念仏ニ堂前ノ普賢象櫻花ノ開クヲ期トス  
寺僧一枝ヲ折テ諸司代ニケンス即朱三石五斗ヲ賜フ是ヲ以テ七ヶ日  
念仏ノ料トス一說是法夏元毎年刑死ノ人ノ為ニコレヲ修ス故ニ諸司  
代ヨリ施  
朱セラル  
峯入野ヨリ菖城大峯ニ入吉野ヘ出ルヲ順逆ヲ断ルニ不及○春熊  
山方聖護院勤之秋吉野ヨリ入テ熊野ヘ増  
出ルヲ逆峯入ト云當山方三宝院勤之

リ仁王会修行事畢テ神輿還幸ニ  
花会式ト云テ日數サダカナラズ

人丸供

十八 和哥ヲ好ム人此日  
曼ク哥會ヲ修ス

淺茅丸  
八十  
八

王權現  
ヲ崇ム

日淺艸寺境内三社權現之祭也三社ハ桧熊濱成竹成兄弟  
三人ヲ祭ル此日内處ニテ菴ヲ易ク賣ル故ニ菴市ト云  
信宿駕迎め奉の御宇拭ニ  
寺僧各白巾を以て拭山

修  
千手念仏

當朱雀通北限舟岡南 千本引接寺間广堂  
念仏ニ堂前ノ普賢象櫻花ノ開クヲ期トス  
寺僧一枝ヲ折テ諸司代ニケンス即朱三石五斗ヲ賜フ是ヲ以テ七ヶ日  
念仏ノ料トス一說是法夏元毎年刑死ノ人ノ為ニコレヲ修ス故ニ諸司  
代ヨリ施  
朱セラル  
峯入野ヨリ菖城大峯ニ入吉野ヘ出ルヲ順逆ヲ断ルニ不及○春熊  
山方聖護院勤之秋吉野ヨリ入テ熊野ヘ増  
出ルヲ逆峯入ト云當山方三宝院勤之

リ仁王会修行事畢テ神輿還幸ニ  
花会式ト云テ日數サダカナラズ

夏

秋名之夏ハあらニ  
あとなとあらニ

補炎帝

帝○淮南子南方火也其帝炎帝其佐朱明執衡而治夏云々炎帝大庭氏也

神○月

祝融令賛羌

祝融神○月

炎帝

火正祝甚融明也

朱明 尔雅夏為朱明注氣赤而光明

昊天 夏曰

字彙

昊天孔安國曰夏時物氣甚明也

元氣廣大

梅天 初夏天ノウルハシキヲ云具ニハ熟梅天黃梅天上云

二ハ清和ノ熟字ニ顛倒シタル

八清和天皇ノ御名ヲ避ルニヤ

和清天 詩古

詩古

二ハ清和ノ熟字ニ顛倒シタル

八清和天皇ノ御名ヲ避ルニヤ

昊天 夏曰

字彙

四月

三才門

卯月 卯の春月

の畧なり

余月 尔雅疏契

四月為余

己月 建寅為正月故

巳月 四月為巳

乾月 純陽補

為乾

正陽月

陽德用事和氣皆陽為正陽月

正月

花彌月 補

四月為花彌月

陽德用事和氣

皆陽為正陽月

正月

正月

正月為正月

陽德用事和氣

皆陽為正陽月

正月

正月

孟夏

荀友

初友

仲呂

律中仲呂

仲呂

立友

節

小滿節

四月ノ中ノ物コヽニ長メ小ク盈滿ヲ得

仲呂

仲呂

漆搔

本宿艸

九月出

仲呂

仲呂

立夏

小滿節

四月ノ中ノ物コヽニ長メ小ク盈滿ヲ得

仲呂

仲呂

四月

氣取門

鶴

大サ鳩ノ如ク黒色短尾尖嘴本紅末黃ナリ脚長メ正

アササギ

青常ニ田沢ニ鳴ク夏月上饌トス味美ニ方目鳥ト書

アササギ

状數雀鵠而色灰黑腹白有雛影翅羽亦有白班口赤頭有小冠毛脰掌蒼

色其前指ニ右連膜後趾ニ與諸鳥異膜ハ肉内ノ薄皮ニ田長トハ田家ソ

ノ鳴ヲテチテ農

チト赤色ヲ帶フ腹白メ黒班ナ

モテス故ナリ

子規

くさら死出の因長めつゝ

冥途

冥途

状數雀鵠而色灰黑腹白有雛影翅羽亦有白班口赤頭有小冠毛脰掌蒼

色其前指ニ右連膜後趾ニ與諸鳥異膜ハ肉内ノ薄皮ニ田長トハ田家ソ

ノ鳴ヲテチテ農

チト赤色ヲ帶フ腹白メ黒班ナ

モテス故ナリ

四月

涼敏季

和三加豆古宇鳥狀杜鵑ニ似テ

チト赤色ヲ帶フ腹白メ黒班ナ

モテス故ナリ

シ脚指亦ニア前ニア後

偽テ杜鵑トメ賣ル

葭剖

葦鳥

吉入寺

初ニ子

葭原雀

丰浪艸蝙蝠ノ異タカトヤ

夜ノ樹入

夜の樹入

秋ノ末

音ヲ教ルニ

蝙蝠

一名蚊巨

秋ノ末

ク集リ鳴

雪の附子

雪笛

笛ヲ以テ引

蝙蝠

一名蟹ノ歎

秋ノ末

ク集リ鳴

クヲ河

鹿ト云

初徑

解子

蠍子オナジ蟹ノ歎

秋ノ末

ク集リ鳴

藏者也亦

食門ニ出

鹿袋角

長二三寸

不尖不堅

蛭

味美ナリトゾ

秋ノ末

ク集リ鳴

舌輪

蠅虎

音ヲ教ルニ

蠅虎

味美ナリトゾ

秋ノ末

ク集リ鳴

蠅蝶

蠅蝶出

音ヲ教ルニ

蠅蝶

味美ナリトゾ

秋ノ末

ク集リ鳴

四月

禁本門

禁本門

禁本門

禁本門

郊の花

郊見叶

雪乃子

數種アリ山空木箱根卯木唐空木

ニウ、ルハ  
山空木ナリ

杉樹

若葉

三葉空木共ニ山中ニアリ人薙壺

内批判

殘毛

落葉

或人深處とトトロに以故

と云々

七日冲

落葉

或人深處とトトロに以故

よりひ子ハ灰白  
艸又云說あり

芳菜

五ひす子

和名衣比須久須

里一云又ミクス

好艸庄

迄子花

良よ子

鳥ノ啼時サケバ良花ト云トソ

ハ非ニ杜若ハ敷生薑トイヒ

山蘿

和三杜若ヲカキツバタト訓スル

テ其花黃或ハ白色ナリトゾ

和三杜若ヲカキツバタト訓スル

テ其花黃或ハ白色ナリトゾ

和三杜若ヲカキツバタト訓スル

テ其花黃或ハ白色ナリトゾ

葵花

二葉系

二葉子

二葉艸かさ子ハ加茂の葵

葉似藤而小

葉紫或白

葉似藤而小

葉紫或白

ハ別種

苔の子

柔子

柔子を傍に走て走る

モと云

モと云

モと云

モと云

緋ノ子

風車花

花八瓣ニメ單葉蒼碧色其形

風車ニ似タリ又白色アリ

高尺

許莖

高尺

四月

九十七

チト赤ク小葵ニ似テ兩々對生シ葉ノ本ニ小花ヲ開ク白色ニ微赤  
ヲ帶フ人笠ヲ著テ躍ルニ似タリ故ニ名ク又続断ヲ以テ踊艸ト云

### 五 穀芭蕉

五 穀芭蕉 葛の茎の毛を

墨栗花

三四月若葉紅色映滿山五六月復青葉深秋其葉黃落

### 夏木立

茶挽子

### 卷髮

田野ニ自生ス苗葉小麥ニ似テ弱ク小ニ穗細レ小兒魏  
粒ヲ丸ノ上ニ載レハ旋圓スルヲ茶臼ヲ挽ガゴトシ

### 沙參草

室櫻花

狗糧草

ノ下ニ莖ヲ附ク一花ヲ開ク状鉢釦ノ如ク倒ニ垂ル青白色黃藥ニメ中空レ黃子ヲ結フ風吹ケハ不動風無レハ自ラ搖ク云々和産宝釦花ノ狀相似テ異ナリトソ又狐挑<sup>ユキノレタ</sup>燈と云りのを宝汎とす未詳

序耳牛花

ちの下垂葉

瓜茄子

今盛花

一名長

長春

青莖長蔓硬刺葉小於薔薇而蒼深紅千葉

### 鳴鳥尾

こやまと紫羅傘

凡書ク

### 蒸義

烏扇

本艸ニ射干烏扇ヲ以テ一物トス未詳但花形カハレリ

鴨足草

年

### 射子

放擣草

### 列珠

桐の菴

木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ圓ク皺文アリ

鴨跖草

年

### 桐蕊

放擣草

艸ニ本綱ヲ引テ虎耳艸ト  
一物トス註コニ畧ス

### 煙草地

煙子苗

柿の花

三月

塔ノ下ニ註アヘンナヘンナ  
リ見合スヘン粉也蒼

木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ圓ク皺文アリ

ヘン粉也蒼

木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ圓ク皺文アリ

ヘン粉也蒼

木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ圓ク皺文アリ

ヘン粉也蒼

木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ圓ク皺文アリ

ヘン粉也蒼

莖

寸又一種小粉團花<sup>ク</sup>形相似テ

小ク白レ大サ寸半許ニ不過

小ク白レ大サ寸半許ニ不過

白桐ハ蒼白ク圓桐ハ蒼紫二種

木高サ丈許梢ニ細氣條ヲ出ス綠色ナト彪茨ノ莖

莖

莖

詠セシハ是ナリ

白蒼ヲ生ス

如ク刺矛レ

白桐ハ蒼白ク圓桐ハ蒼紫二種

木高サ丈許梢ニ細氣條ヲ出ス綠色ナト彪茨ノ莖

莖

莖

列珠

桐の菴

木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ圓ク皺文アリ

ヘン粉也蒼

木高五七尺葉箱根卯木ニ似テ圓ク皺文アリ

ヘン粉也蒼

莖

ク英ヲ結フモ綠豆ニ似クリ○一種木ノ屬

ト云

ク英ヲ結フモ綠豆ニ似クリ○一種木ノ屬

ト云

ク英ヲ結フモ綠豆ニ似クリ○一種木ノ屬

ト云

莖

出六出アリ

病葉

白桐ハ蒼白ク圓桐ハ蒼紫二種

木高サ丈許梢ニ細氣條ヲ出ス綠色ナト彪茨ノ莖

莖

莖

四五月茂リ

石蓆芮

延水下濕ノ地ニ生ス高者尺許根蒼ノゴトシ

花ヲ開キ實ヲ結フ又葉人參ノ葉ノ加

シ既又金宝花ヲオニタカラシト云

莖

莖

黄白子

蓼秋穗

四五月茂リ

蓼秋穗

蓼秋穗

莖

莖

花ヲ開キ實ヲ結フ又葉人參ノ葉ノ加

シ既又金宝花ヲオニタカラシト云

花ヲ開キ實ヲ結フ又葉人參ノ葉ノ加

シ既又金宝花ヲオニタカラシト云

花ヲ開キ實ヲ結フ又葉人參ノ葉ノ加

莖

莖

莖

莖

莖

莖

莖

呼テ虞美人艸トス

蓋ケシノ別種ニ

似テ朶梢長ク曲ル実ヲ結フ状小蓮子ノ如レ茶茲ノ昔ニ似タルユ工名

クトソ又花杆ノ花ノ如ク白シ香モ杆ニ似タリ賣子本ニレヤノ木ト云

ハ非

## 葉桜

## 楳の实

さくら

白丁荅

高

山

苔

高ハ二三丈径一二尺葉ハ梅嫌  
木ニ似テ尖長ニ寸許花野梅ニ

四月

十

ナナ

三尺小白花ナト

丁香ノ氣アリ

丹花ニ似テ淺紅櫻花苞ノ中ヨリ出テ花

セウガヒ

葉韭ニ似テ綵文アラ

紫色大一尺許櫻桐花ノ穗ヲナス黃白色

麦門冬

リ深紅花ヲヒラク

階前艸庄云紅蓼花ノ如

レ疑ラクハ七八月カ

敷椿

椿庄女貞木庄

中冓之苗高サ二三寸葉大サ

十

飄樹ノ葉ノ如クニメ尖ラズニメ円ク攢リ生ス外色青ク内紫黑色小

小

井

兎剥皮食フ味ナト酸シ

麦秋

麦苅

麥菜

稻麥

麦粉

補麦の秋風

又二年艸年越艸茶

茶

扇骨不花

高

三丈葉ハ椿ニ似テ狹ク小白花ヲ開ク細子ヲ結フ其木最堅硬ニシテ扇骨トスルニ堪タリ故ニ名ク

芭の碁

芭の碁

十

リ葉芽泥中ニアリ竹鞭ノ如レ長キハ丈余  
二至三蔬トナシテ茄俗ニ蘿絲菜ト呼フ

署根

本書ニカクアレ庄共ニ蓮ノ字

ナクテハ通シカタランカ

ニ最生ス其根甚繁シ紅花ヲ開ク節ノ上ニ自

ラ根鬚ヲ生ス物ニ盛テ屋下ニカケテ愛ス

奢木毛

和三樹叢生高五七尺葉似槲葉而厚潤有大鋸齒四月有小

花紫暗色形色不堪玩結子如小枣秋月赤熟

芭

芭

芭

芭

和三線揩艸高五六寸葉如初生稻

文字指毛

苗而細軟三月開花如穗而色深赤

## 服食門

四月

更衣

朔

向蛮

子

面白裏向又寒ケレバ給ノ

下ニ小袖ヲ着スルヲ云トゾ

裾計

槿鳥賦

京畿生鳥賦暮秋ヨリ冬ニ至リ畠出ツ

弱稅

初拾

衿

三月

春夏ノ間塩鳥賊ヲ  
用ニ北地ト異ナリ

榮端

補集

奉酒

鷦鷯 氣形門

射茶

亥茶

ニ註ス

榮端

補集

奉酒

## 四月

### 公式門

孟友旬

朔

旬トハ天子臣下に御内をより政をきらうと爲ひて食  
にそなへくの体あり肉を烹あくべく造られては

ちく南歎シ行りセラムトハ彰謝の旬トド佐ニ即せテテ路  
政之のそみウトハ万機旬トド或ハ朔旦の旬孟冬の旬トドモや莫モ  
のをハニ孟の扇の拜

公事ニ二獻のほ扇をミクチ持シムいと無  
旬トリフシ

平度をアシテ車を簾

日新一き簾を撤シ一說か若乃莫モニ月一日  
翠簾エ掛らムカ

更衣

公事ニリシハ衣ツムあれハ宿中

翠簾の笠と云

笠上の笠と云

閑向加茂旨

申

か茂久のあ日ニ主人ハ乗車ニテビト  
底上の方祖ミ白乃ハ御常神室モ櫻や

うのねどくけりこもむ上をア車を列ね社院ニテ神ねあり  
袴腰祭

朔

近江坂田郡所祭御食津神稻食ヲ掌リ五フニ依テ婚ヲ  
ナス女祭祀ニ鍋ヲイタハキ神ニ奉ル再嫁スル者ハニ

枚三嫁スル者ハ三枚ヲ用ユト云々俊頼ノ説ニハ女ノ男シタル數ニ隨  
ヒテトアリミソカニ逢ル男ノ數ニハアラザランカコノ神戻中絶セレ  
ヨ今ハ小女紙ニテ鍋

増

鉢さす

鉢ハ月鉢リテ多て能社ニテ

ヨツクリテ子ビス

増

鉢さす

心忌されトハ加茂の神モ祀ル忌

竹とさへりて春の物ト大津丸

江州大津四宮祭神四坐小日枝

和州廣瀬河合村ニ坐ス和加宇加賣神コレヲ大忌神トイフ

内州竜田ニ

坐ス天御柱國御柱神ニ坐コレヲ風神トイフ祭ノ日ハ廢勢ニ使ハ前ノ

日タツ大忌風神ノ祭トイフ年穀ノ豊

ナルヲ祈申サルニヤ七月四日丙シ

所ノ神戻ニ申日山王祭ニ又廣瀬祭

日

坂本ヘ神ヲ帰シ渡ス

所ノ神戻ニ申日山王祭ニ又廣瀬祭

日

坂本ヘ神ヲ帰シ渡ス

増

竜田祭

日

江州大津四宮祭神四坐小日枝

大日枝氣比小禪師右四坐在同

サル者モ許サレテ今日東坂本花摘社ニ詣スコレヲ花摘ト云此社ハ傳教大師ノ御母堂妙徳婦人ヲ祭ルト云リ○此日戒壇開帳坐像ノ誕迦文珠弥勒ナリ

### 夏入ゲ 八 夏書

四月十六日ヨリ七月十六日テデ九旬ノ間聖經及名号題目等ヲ書

写シ夏終ルノ後堂塔ニ納 ヘルヲ夏書納メトイフ

### 友之始

#### 友之終

按ルニ是ハ勺作ニヨリテ三夏ノ用タルヘレ

### 友之始

#### 友之終

青薺金香赤丘降季日

仏生寺 苍御堂 補俗佛 内

### 仏産湯

五香水トハ都梁香青薺金香赤丘降季

白附子香黄安息香黒也龍華会トハ龍華樹ノ下ニテ賤勒始テ正覺ヲトナヘ玉ヒシ處ニ今日禊事ヲ浴シ奉リ當来弥勒ニ逢奉ル結縁トスレハスクニ龍華

記ス第二卯日モシニツ有片ハ初卯ヲ用ユ神輿コトニ供奉ノ鑑武者遙者寺從フアラタニ弘法大師作神輿ニ掛ル假面是ナリ

**大神** 祢ホガノツツリ 上 公幸ニ先川井の日使カニシキ大魚の如一匹奈モハ寅の増  
神ホガノツツリ 卯 日使カニシキ天子ハ友ハ印の日ヒシキ使カニシキモハタヒテニキシキ大

神ホガノツツリトハ太玉翁の神カニシキ大魚の神カニシキ乃乃カニシキ大神社者カニシキ増  
在大和國城上郡所祭一座大神大己貴神也十二月内内レ  
往者御名カニシキ初

相傳卯日此處幽跡故神輿一基自瑞籬外到八瀧丸カミラマツ上 山城國愛宕郡此門則辻草神主及称宜合持卯杖是謂忘畔ミシタマツ八瀧丸カミラマツ辰 矢背里榮神八王子擁現天滿官兩社祭ノ日土人大竹カツチヲ切テソノ枝ニカツチ增  
五色扇挑灯等ノ物ヲツリサゲ雜ソサエシナカラ持アリク  
公幸ニ官崎氏の祀神カニシキ山神國宇治於勤修焉に丙午カニシキ七月土月癸カニシキ○今世に山科空カニシキ云ハ北山科諸羽明神カニシキ壬カニシキ九月九日參之樂神二坐大己貴命カニシキ增  
太玉命カニシキ太玉命カニシキ

**多加丸祭** 上已正 江州犬上郡祭神伊弉諾尊神輿本  
二午正 宮ヨリ大宮カミヤマ所ヘ渡御氏子村々ヨリ造花ヲ出ス遙者ハ年々思フ巡ニカニシキ十一月内内レ

ニアリ祭袖二坐カニシキ大人神經津王命 増  
ニ公幸ニ年の日使カニシキ十一月内内レ  
イヅレカ是ナル在北野天神社西野カニシキ祭神五坐今木神 増  
隨フ彦根ヨリ幣圓物貯二人出ス  
ニアリ祭袖二坐カニシキ大人神經津王命 増  
ニ公幸ニ年の日使カニシキ十一月内内レ  
久度之神古開神比賣袖神勅使奉幣使如加茂

大和國葛野郡當麻都比古社二坐磨子王子命比賣神云カニシキ當麻寺ハ  
用明帝第四王子磨子所創也公幸ニ年日使カニシキ十一月内内レ  
**松尾祭** 上 山城國葛野郡祭神二坐カニシキ大山カニシキ唯神又紀事ニハ神輿七社  
捨桂川東翌日現童再昇此神輿然後碎破之各取其木片拂廁然則禳疫云  
武御輿民間稱神保礼宮言今口再遊行猶瞻余凡近村百八村悉修松尾祭○

七社ハ月読社栎谷社三宮宗像

増一サム子

當宗祭

上

河内国志紀  
郡當宗神社

二坐當宗忌寸出自後漢獻帝四世孫山陽  
公後也公事ニ年日候アリ

十一月円レ

寺十四日遼供養アリ中將姫ノ忌日也此來迎引接ノ法事ハ惠心僧都行

ヒ初々玉フ未迎ノ本尊又二十五井ノ假面ヲ用ユ

增土塔舍

十五

天王寺南大门下土塔塚ノ前ニアリ祭神牛頭天王徃

更法会ヲ行フ次ニ仁王經法則舞乐アリ是ヲ土塔会ト云

安所

四月十六日前安居十七日以後五

口後安

千葉子

十六

三井寺ニ鬼子母神ハ一千子アルヲ以テ祭ルニ一千ノ數ヲ供スル意ニテ千

居ト云

團子ト云リトソ諸

人參詣群ヨナス

樟現祭

十七

下野国日光御本社神輿ト云神君御祭礼ニ行裝嚴重ト云

神輿一說日光種現白張百人上下着丸人麻彌羅神ヤ

輿白張百人上下着丸人○三社ハ李宮新官淹尾ナリ

紀伊國和歌山ノ御祭礼或ハ雜賀祭

ト云神君御祭禮ニ行裝嚴重ト云

迎江坂本上ノ七社ハ山王推現大國主大神二宮ナ多羅神及金毘羅神聖

眞子八幡大井八王子灌頂大法王子客人宮去來諾大神十禪師地藏井ノ

申日ニツアレハ下申ヲ用フ

山王丸ふ申

申日ニツアレハ下申ヲ用フ

和哥祭

日

白張百人素襪丸人山王

應化三官二貴女各本地ハ譽又中七社ハ牛御子大歲德太行處昌沙門卑  
尾不動氣比亞觀音下八王子虛空藏王子宮文殊聖女如意輪下ノ七社ハ  
小禪師跡勸童樹惡王子愛深新行奉吉祥天岩滝井才天山來廣利支天  
神不動竈殿大日以上九一社傳云山王祭ハ十年諸サレハ悉ク見盈シカ  
タレト云リ午日八王子ノ拜殿ヨリ八王子三官ノ神輿ヲ落ス神輿解散  
十人並居中ニテ諸トリ山坂ヲ下ス是ヨ神輿落シト云未日二官八王子  
三ノ官十禪師ノ神輿ヲ大政所ニ移レ奉ル暮ニ及テ脅宮落シト云ア  
リ前ノ如レ申日山門衆徒棧鋪入大津四宮ヨリ拂ヲワタスト神輿船ニ  
ウツレ奉ルト辛崎沖ニテ神供ノ式ノト其外甚事繁シ日吉祭古ハ四月廿五日  
供ノ式ノト其外甚事繁シ日吉祭古ハ四月廿五日本書ニカク有  
處ニ日吉祭モアリ年浪艸ニハナシ公増今ハ五月十四日テ又山王祭ノ  
幸ニ中申日龜神大山詔神十一月円レ吉因魯申中畠家祭ノ申  
らせラニ春日の社ト

葵笠

中

酉日ニツアレハ下酉ヲ用ユ

領賀茂地人各捕是於既髮亦修之中畠祭日宦家人各被懸葵蔓於衣

葵蔓

申

葵蔓挂枝コレ

コ諸蔓ト云フ

御祓の日御生トハ玉依姬ノ別雷命ヲウミ玉フ日ト云美ニ實ハ申ノ

日生レ王ヒ酉ノ日ハメレヲ祝奉ル儀庄云勅使初葵ヲコジ

リ下賀茂御祖玉依姬上賀茂別雷神祭ナリ又國祭ト云ハ前ノ日ニ今絶

口沐ニ十一月円レ

日カザレ玉フ御簾ニカ、ルモ此日ノ葵也祭トバカリ云モ加茂ニ限レ

リ下賀茂御祖玉依姬上賀茂別雷神祭ナリ又國祭ト云ハ前ノ日ニ今絶

當宗祭

上

河内国志紀  
郡當宗神社

子リタマウ

自十三日

和州當麻

三夏波門

- 涼 | 窓  
扇 滴 扇 川 築  
安き村 友の村 寢 莳  
穀香 香百歩香ナドアリ 白ひ袋 季子  
汗 け拭ひ 繡 窓  
内 窓 窓 窓

窓山 夏山ノ形  
容ヲ云フ一  
是故者がへんを火に燃ひ  
季子昔之在の用となし  
繡描 繡樹深山ニ生ス葉女  
貞キニ似テウスシ光沢

茄子	初茄子	干縷	水鱧
豆	豆	葉柳	根芊
茂リ	本	葉柳	根芊
ナ	ナ	飯鮓	瓜
リ	伊本	伊本是ナリ	甜瓜 瓜韓瓜等アレモ味劣ル
ナ	ナ	下ケ帶	下ケ帶
リ	ナ	附	附

アリ四五月細白花ヲ開キ子ヲ結フ其木  
度ヲ剥キ水ニ浸シトラカレテ之ヲ巻ク

アリアリ源氏薰衣

サルヲ云

哥ニハ螢蝉ナトヨ詠レト俳

ニハソレニモ限ルヘカラス

卅三

## 水鮓

鮓ニヌメ灰色黃ヲ帶フ頭一ムレノ如シ鱗カタク鬚短ク五六寸ヨリ尺半ニ至ル味佳ナラス頭形ミニクキヲ以テ女童コレ

ヲ賞セス和州人饗應必用ノ美看トス一說鮓鱈ノ兩種ヲ大坂ヨリ大和ヘオクルニ捕ニ水ヲ退ヘ魚ヲ漬大和川ヲ舟ニテ曳ノホルコレヲ水

## 醴水鮓

トイフ

## 薰王鮓魚

大サ尺許鹽水ヲ以テ薰テ年熟セシメ取出テ名ク  
テ陰乾スル數日ニメ煮リ食フ仍テ名ク

## 祭

## 五月

## 三才門

## 臯月

爾雅曰五月為臯五月得成曰屬臯○臯氣之進也

## 盧橘月

卷玉たゞ代より橘月の名と云ひて  
多々むうきどひりん家作

## 仲夏

## 茂林

増莊賓セイヒン律○莊下賓敬也言陽氣

## 苦種

五月上極陰氣始賓敬之也

## 早苗月

## 月不見月

言有苦之  
穀可播种

## 夏至

五月

## 午夏生

五月ノ中ヨリ十一日目ナリ

令廣變ニ半百葉艸也居夏之半

云々

## 端午

午ノ月ナレハ也又端午ノ号重  
九ニ内シ後世五ヲ午トス云々

## 菖蒲湯

楚辭浴蘭

言有苦之  
芳草

## 菖蒲鬢

聖武天皇天平十九年五月より詔有て百官  
法人悉く菖蒲鬢をつゝへーつけさんも

のハ宮中に入へか

ハ

## 揃佩

擣，葉ヲ取テコレヲ佩惡氣ヲ避フ  
或ハ序田舎ニハ端午ニ擣，葉ヲ杆

ニフク處

有リトフ

## 競渡

## 芻車

## 水馬

五

屈原叫日汨羅ニ  
死ス人舟ヲ以テ

テ

極フ今ノ競渡其遺俗也南方競渡者ソノ舟ヲ治ル「輕利ナラシムコ

レヲ吾島ト云又水車正水馬正蓋越入舟ヲ以テ車トシ機ヲ以テ馬トス  
故ニ島車水馬ノ名アリハイロンハ唐音也皆コギクラベヘ速ナルヲ勝

トス和三唐人未寓居長崎逢此日則來數艘小船立旗幟而爭先喚曰排竜  
焉々以速為勝乃是競渡也

カブト

冒餅

五

天應元年蒙古賊未ル早良親王ヲメコレヲ討シム親王藤森社ニ祈テ出  
陳干時五月五日忽神凡吹テ敵船ヲ飘シ立處ニ皆敗走シ不戰メ勝ツ此  
蓋為屈原逐竜之意乎

仁天皇相傳光

因縁シテ蓋此夏イシタ

五

紀事兒童以柳木作大小之刀是謂菖蒲刀

百鍊鏡ト

不見于國史云印地打

上二

横之腰著頭巾効山伏体及晚出鴨河辺左

日鍊テ鏡ヲ鑄レハコトニヨシトソ○異聞集ニ水心鏡

戰是謂印地打菖蒲打

同三

五月の後

五

日鉄ヲ此

日鍊テ鏡ヲ鑄レハコトニヨシトソ○異聞集ニ水心鏡

右列擲磯而相

五月五日於楊子江心鑄之背龍頗異後旱祠之乃雨

日

吹あらす

五月雨

九

五月雨

五

青嵐

梢を

梅雨

九

梅熟スル時ノ雨ヲ梅雨一云時珍曰梅雨或作徽雨言其沾衣及物皆生黑徽也菖種後逢壬為入梅小暑後逢壬為出梅云々外ニ

三說異アリ

コニ畧ス

木下閣差りて茂のく

九

青田

九八

此日大磯の近必至ふ。其家十席カタ元

九

梅雨ヘづれの風又思

桂木中之を含カム優雨ヨウウとある。

九

富士垢離コロリ

九

紀事自五月廿五日至六月二日富士行人毎日

士參詣云具所

九

出河近傍富士垢離而通拜富士權現是則同富

会謂富士小屋

九

五月雨

九

日

五月雨

九

五月雨

九

日

## 五月

### 氣形門

蠍牛

螢

蟹の蛹

蟹ヲ養フ器ヲ蟹薄ト云

雨蛙

枝ニスム

水鷄

大如鷄而頭脊翅皆蒼黑班帶淡黃

間白有白黑班尾短脚長淡黃夜鳴達旦声如人敲戶

九

蓋在水邊告晨故名水鷄赤水雞鼠水雞形狀畧之

毛とか  
や。

九

通一毫

九

蟹の子

九

法

蟹翠

和三

鵠俗

七川世形小在池川捕魚翡翠

九

山形大在山溪捕魚

九

鵠の巣

九

法

世形小在池川捕魚翡翠

九

鵠の巣

九

鵠の巣

九

法

小築

九

獸狩

九

穴串

九

法

鵠

九

照射

九

法

以テ北麿ノ音ヲ偽レハ牡角自メ未リ號ニカ、リ或ハ陷穿ニ入又鉛鑿

九

腰ニシ火ヲ焚ク状松明ニ似タリ麿火ヲ見テ未リ人ノ為ニ殺サルコ

五

月

廿六

レヲ照射ト云子ラヒカリモ同シ又矢ニ火カ

ヲサレグシテ鹿ヲ同ニカクヨセテ射ルニ

鹿の子

増蜜子酒醋

君虫也 增水馬

又云鹽賣此虫味甘似

鹽賣群游水上

增駁蟲小黑虫

ヲ游メクリテヤマス雙紗輪ニ水スニシ是ナリトソ

蛇脱衣

## 五月

### 草木門

菖蒲背

アヤメハ百病ヲ除ク

蓬菖蒲

蓬萊摘

薬日五

競駝

宗極抄ニキソヒカリスルトハ四五月ニ菜狩トテスルニ

百忙と圖す

歲時記曰端午日四民國百忙

之戲

又競駝ノ賣トモ此日百忙ヲ取製メ金石菖蒲

大咬腋臭等ノ葉トスルニ功能アリトソ

岩あやめ

合歡花

上半ハ白ク下半ハ肉紅散垂メ系ノ如シ葉夜ニ至ルトキハ含ス

百合花

姬百合  
山丹苗

鬼百合  
卷丹苗

被百合

深山溪間ニアリ繩ニスガリドリ一株ヲトリテ被ニ入故ニ名ク

黑百合

特多百合

車百合

葉ナトヒロク對生メ車ノゴトシ

鹿子百合

白苔

紫点

山丹本

苔草庄地脣庄カク

六年菖蒲根合せに左一丈

一尺右一丈二尺のよ

紅苔

葉ハ小薺ノコトシ苔ハ大薺ノ如レ晨ヲ侵メ苔ヲ來ル此苔初テ末ヨリ

開キ次第ニ本ニ咲ニ咲ニ隨

藻の花

苔ナトヒロク對

長き根

兼永

テ摘トル故ニ末摘苔ト云

萍の苔

大ナルハ蘋ト云中ナルハ苔ト云小

二苔且見ト云モ

大ナルハ蘋ト云中ナルハ苔ト云小

水苔

浮萍ニトソ小白苔ナリ

杜鵑苔

五月躡躅和三山躡躅和

石榴杜鵑花和

躡躅山躡躅和

羊蹄根

羊蹄苔

羊蹄ハ根ヲ以テ名ク葉ハ長尺余牛古ノ形ニ似タリソノ味淡キ

レブクサト云夏ニ至テ小黃花ヲヒラク其根大黃ニ似タリ和俗大黃ト

云莖花共ニ黃赤ニ種アリソノ實枝ナカラ振動力セハソノ音ギシ

ト云左豆木

今云阿伊豆々之

奥陸

名阿伊豆々之

羊蹄根

牛古ノ形ニ似タリソノ味淡キ

レブクサト云夏ニ至テ小黃花ヲヒラク其根大黃ニ似タリ和俗大黃ト

云莖花共ニ黃赤ニ種アリソノ實枝ナカラ振動力セハソノ音ギシ

ト云左豆木

今云阿伊豆々之

奥陸

レヲ照射ト云子ラヒカリモ同シ又矢ニ火カ

ヲサレグシテ鹿ヲ同ニカクヨセテ射ルニ

鹿の子

増蜜子酒醋

君虫也 增水馬

又云鹽賣此虫味甘似

鹽賣群游水上

ヲ游メクリテヤマス雙紗輪ニ水スニシ是ナリトソ

蛇脱衣

竹植日十三晋書竹醉日亦竹迷

日是日裁竹必活

ト云

トモ書ク是名アリ畧ス和三今無識者惜哉云々〇本邦戴孫花ト俚俗ノ  
称スルモノ證シカタレトソ但和三ノ國ハ一艸一莖ニメ其頂ニ葉六枚  
アリテ花ヲイクツホクサヘルナシ百及枯草アフチホクサ時珍曰原野甚疊苗高一二尺許其莖微方葉對  
紫小花〇穗ノ形矢筒ノ韌ニ似タリ故ニ名クナ  
云及弟ムニヒヨウ花云及弟ムニヒヨウ花云及弟ムニヒヨウ花云及弟ムニヒヨウ花云及弟ムニヒヨウ花云及弟ムニヒヨウ花

節生有細齒背白莖端作穗長一二寸穗中開淡  
香十アフチ

雲及弟ムニヒヨウせんぐんのむムニヒヨウ本綿葉密如槐而長三四月開花紅紫色芬  
香滿庭〇和俗誤テ栴檀ト呼フ栴檀ハ檀

香十アフチ意苡仁アフチ苗ハ黍ニ數ス葉ノ間枝ヲ分穗ヲ出シ實ヲ結  
里アフチ萱草アフチ風土記ニ姫婦其花ヲ佩レハ男ヲ生ス故  
ニ宜男艸压云忘艸ハ恩艸ノ一名ナリ压

年浪艸アフチ七夏菊アフチ朝菊アフチ瓣葉アフチ葉  
月ニ出ス可アフチ金相アフチ枳穀アフチ春生乳相アフチ橙アフチ

昔ニ似テツヤナシ花ノ色紫碧初テ綻ルトアフチ  
キ野菊ノ如シ愚云コレ朝鮮菊ナラニカ  
萱草アフチ也アフチ風土記ニ姫婦其花ヲ佩レハ男ヲ生ス故  
ニ宜男艸压云忘艸ハ恩艸ノ一名ナリ压

抽甚香アフチ金相アフチ枳穀アフチ春生乳相アフチ橙アフチ

密相アフチ橘アフチ小白花甚香シ大和本艸ニコレヲ花タチ  
ハナト古哥ニヨメリ云々コノ外ニモ

繭絲菴アフチ下毛花アフチ葉レハニ鋸齒  
アリ淡紅五片

## 溫州桔

## 仏手柑

## 朱櫟

等葉花皆似チ  
大小有ノミ

## 蘆桔

拔ア

リ長葉硬膚兩點尖リ白花ヲ開ク花繁密  
清香數步ニ聞ユ實ハ密柑ヨリ大ナリ  
の柑丸ニタクツヘテ  
ハナツテ多らぬ云々

## 繭絲菴

## 下毛花

葉レハニ鋸齒  
アリ淡紅五片

小花コ、椎の花アフチ其葉徑ニ似テ鋸齒細ニ強シ冬モ亦葉落  
ナリ咲クス細白花ニメ白丁花ニ似タリ微香アリ

## 金銀忍

## 忍冬

此艸藤生ス凌冬不凋故名忍  
冬三四月開花長寸許一莖兩

花二瓣一大一小如半邊形長葉初用者葉弁俱色白絳  
二三日則色變黃新旧相參相映故呼金銀花氣甚芬芳  
中莖似蔓而堅強植生有刺葉似接葉秋開黃花結紅子〇  
俗僂山飯未ト云西國野人用葉包麥餅故名五郎四郎榮  
虎鬚艸アフチ一名燈心艸

## 栗花

## つづりもる

本書ニハ斯ア  
リ年波草ニハ

根葉ヲ蔬トス赤莖

入梅ノ次ニ墜イ栗花トアリテ註ニ紀吏曰立春後  
百三十五日大槻徹雨トス諸物徹腐ルトアリ  
菽豆赤皆莖之總称也

荳豆赤皆莖之總称也

## 荳荳

## 荳荳

## 覓

和三六月細花ヲ用穗ヲ

リ年波草ニハ  
根葉ヲ蔬トス赤莖

花云及弟ムニヒヨウ栗花トアリテ註ニ紀吏曰立春後  
百三十五日大槻徹雨トス諸物徹腐ルトアリ  
荳豆赤皆莖之總称也

## 荳荳

## 覓

和三六月細花ヲ用穗ヲ

ハ高三尺來紅ニ似テ

之覓

馬齒莧ト書布地而生葉至細微六七

美ニ庭園ニウエテ愛ス

月開細花結小尖實又云景天艸ノ強

キ力

夏大根

覆盆子

蔓艸ニ一枝五葉白花ヲ開四五

如シ

月實

○樹高四五尺小白花實

ヲ結フ覆盆子ト一樣但色紅ヲ異トス

○

蝶蘭地ニ就

蓬蘽

馬齒莧ト書布地而生葉至細微六七

テ生ス蔓長サ數寸黃花實ヲ結フス

蓬蘽

月開細花結小尖實又云景天艸ノ強

メ食フ莖老ルキハ杖トナルヘシ

○

七八月細白花ヲ開キ實ヲ結フ

天葵

葉ニ似テレハミ三

四月小白花ヲ開梅花ニ似テ小ニ實ヲ結フ但

雌雄アリ人嫩葉ヲ採テ酸味増ニ和メ食フ

花柘榴

アカガ四月苗ヲ

色アリトツ

太蘭

蔓蒼黒シ葉接桃ノ

トツ

端開小穗花結細實

早松茸

アラクサ生入蔬ト

室豆引

石竜芻長四五尺莖

天葵

葉ニ似テレハミ三

蚊屋釣牛

根細鬚ノミニメ子ナシ引ニ拔易シ其莖三棱アリ小児中

火柘榴

アカガ四月苗ヲ

二向フ故ニ名ク

南天花

葉ニ似テレハミ三

間ヲ裂テ引擴ケ以テ蚊帳ヲツルニ比メ戲トス蓋此香附

花柘榴

アカガ四月苗ヲ

子艸ノ雄ト云ヘキモノ平京畿ノ兒童專ラ此戲アリ花ハ六

早松茸

アラクサ生入蔬トアリ

瓣ニメ粉淡紅色アツマリ開テ傘蓋ノ如シ和三

蕙

アラクサ生入蔬トアリ

花葵

アラクサ生入蔬トアリ

白及

葉蘭ニ似テ潤薄ノ

蕙

アラクサ生入蔬トアリ

田桔

葉蘭ニ似テ潤薄ノ

田桔

縱理アリ三四月開

早乙女

アラクサ生入蔬トアリ

田南星

アラクサ生入蔬トアリ

天南星

アラクサ生入蔬トアリ

有之三月生苗似荷梗其莖高尺以來葉如蕩蕩兩岐相抱花似蛇頭黃色七

月結子作穗○根円白ニメ形老人星ノ形ノ如クナルニヨフテ名ノ本名

虎掌和名ソホ

又

有白花本色紫

山梔子花

アラクサ生入蔬トアリ

若竹

アラクサ生入蔬トアリ

六出香基シ

田桔

アラクサ生入蔬トアリ

玉ざくらへ

アラクサ生入蔬トアリ

玉苗舟

アラクサ生入蔬トアリ

田草取

アラクサ生入蔬トアリ

細物蒔

アラクサ生入蔬トアリ

粟箭

アラクサ生入蔬トアリ

稗蒔

アラクサ生入蔬トアリ

胡麻蒔

アラクサ生入蔬トアリ

秬蒔

アラクサ生入蔬トアリ

柳蒔

アラクサ生入蔬トアリ

柳蒔

アラクサ生入蔬トアリ

而心有黃鬚鋪散花外若金絲美容

柳蒔和三單山吹ノ加シト云

柳蒔

アラクサ生入蔬トアリ

水芙蓉

アラクサ生入蔬トアリ

水芙蓉

アラクサ生入蔬トアリ

補水タル

鈎落タル

一名銀鉢花ト云花ノ形拂ニ似テ小ク色白青  
シウルミアリ底ニ黒紅ノキホヒアリ葉ハ三

ツ出五ツ出西瓜ノ葉ニ似タリ高  
二尺許枝アリ朝ニ開キ夕ニ萎ム

松落葉

竹落葉

古

抄松竹落葉ノ下ニ落ルトハ詩ノ  
詞ニテ散ルトハ大和ノ風雅ナリ

落葉ト

柳の葉

和三高ニ三丈老則皮自脫為紅脣復次如此葉似  
竹葉而厚有縱理淺綠色表裏滑美甚強兩々對生

又水葵ヲ那岐ト云花桔梗ニ似テ深紫色ニ  
木長屋室有此木則餘材皆不震其為木王可知似柳而葉小花紫生角其角

細長如箸其長近尺冬後葉落而角猶在樹或ハ其花深黃色ナリ云々

本綱

梓の花

本綱

為百

## 五月

### 服食門

惟子

辻々蒼

貞治云辻々蒼もとりつるえ東き惟子の事す  
モハ友よあらとす

思云辻白辻辻思辻兼弘

物

粽

卷粽

糸粽

絲粽

本綱

古

辻々蒼もとりつるえあきも源も起也おれもと菴に  
珍毛ちんじゆけいとハ辻々蒼と斗の句作もあらん矣

榮物

糸粽

本綱

補芦粽

稻糸

稻糸

稻糸ヲ以テ包ム色飴ノ如トル故ニ名シ公子ニ  
高辛子の孫子ありふ日之舟ノ末て飴と清り一

時暴風搖て波を沈みたり水神とめて老いたと惱もある人ある  
の魚を以て粽を以て舟中に投入しとみその故珍と爲これより一  
例神人となりやなさすこゝに魚も珍難てあらじと仰く伊くやう又  
舟をうねりて沈み魚はに茎を一をあらじ時の傳わるるもとや云々

青梅

青山椒

杏子

からも

早桃

夏桃

桑の実

杏桃

スイモモ

郁杏花實

枇杷實

青柚

廿胡桃

庚桃

追テ勘

胡桃

越桃

和三

和名

宇利俗為布里者非也○姫瓜ハ小兒眼鼻口ヲエカキテ既トス故ニ名ク

甜瓜ハ真桑瓜ヘ金瓜ハ攝州ノ產銀瓜ハ參州ノ產共ニ色ニヨツテ名ク

和名

古

青瓜ト云ハ堅瓜放韓瓜ハ甜瓜ニ似テ大ニ味劣ル阿古陀瓜ハ南瓜ニ似  
タリ白梵天ト云ハイカナルニヤ菜瓜ハ越瓜ニ似テ小ニ乾瓜ハ越瓜ヲ  
塩ニ糁シ 乾スナリ **號豆** トウ 時珍曰八九月下種百穀之中最為先登、本草占  
抄等九月出年波艸五月出五月熟ス

**太角豆** テ 豆豆 トウ

**本草取** キクラケトル

## 五月

### 公式門

<b>始成供</b> <small>ヨコス</small> 四日内膳司 供野瓜 <small>アマガウ</small>	<b>補綻命縷</b> <small>ヒツイニミツ</small> 补辟兵縷	<b>朱索</b> <small>クスカ</small>	<b>長命縷</b> <small>キシヤ</small>	<b>五絲絲</b> <small>ゴシシ</small>
五月九日ハ從服す内膳司とてモニの事と御さけくましくまれて 御ハ快すレバやうの左方に付く〇五月五日以降繩繫臂辟鬼及兵令 人不病瘟〇長命縷以下皆糸糸の 終へ海と除く為爲可也ト云	補五月玉 <small>ヒツイチヨウ</small> 桃葉 <small>子ノ</small>	騎射 <small>キシヤ</small> 五 豊樂作 <small>ヨウラクサ</small> て皆 日ハ跨射を海		

一ノえ光をす弓とつて天子御居嘗あやりの

左近の半緒

ロレと冠マリケン吉生の儀式あり一也  
公事に三日ハ左近の急事御セリハ本直の急事請め日ハ左近の事  
六日ハ右をの急事請之昔ハナシたがその事請17日請村の事作一也  
御ハ太君の事ももれ事も〇け日は身櫛の施セ打ニ萬事あひと  
是日とつて之急事請も因しまる事無事日あれハナリセヒ  
事の日よりよみひ

有事日 ヒツキ 日 ヒツキ 事忌ニ宮中ニ有り一の日

トリハ引持の事く

トややにや廢勢日に行はされとも政行られ付けれ

又焉すあれハ俄ニ改ムあり初音ふーの日とハナリ

ノ朱塗もとを取一へ京中の條里小路

加茂足柄 ヒコ 馬負二十疋

と余て檢非違使承てこれと付く

鳥帽子淨衣社司各坐坪外初每人衆一馬使駆驅而考其運

速使執筆記之其後馬遲速同者此之使二人騎之故是謂足柄

松本祭 ヒタチ 在江州大津松本村祭神平野大明神也仁  
日 ヒタチ 德天皇廟也奉移難波平野云く神輿一基  
有音乐午時有競馬所乗之氏人二十人各著冠巻纓所縷左方著赤袍右方  
著黑袍各於南一鳥居外乘馬自馬場未至馬場本始先弟一番左右每一足  
馳是謂空走也其后各  
双馳而争遲速決勝負

增 ヒタチ 生玉流鏑馬 ヒタチ 摂州東生郡崇神一坐天  
日 ヒタチ 生玉日神也午刻流鏑馬

アリ神前ノ門外ヨリ鳥居ノ方へ駆ル其裝束ハ腰

蒜夷日

卷陣羽織ヲ着シ一參ニレテ止ム

在山城國紀伊郡深草山之南祭神舍人親王○神輿三基遊行社家著甲冑

來馬供奉是蒙古征伐代早良親王坂陣ノ粧也供奉著甲冑始自斯神夏云々

御坐會九日コノ会ハ昔ハ九日今ハ當月十五日今官祭ナリ

室祭

十三日在播州室津大社祭神同洛東上加茂同所之氏人兩人下

向於播州而司神夏云々遊女十二人三日潔齋ニテ神夏

ニ出丹五人男子ノ姿トナリ鬢ヲ剃リ男鬚ニメ金襴ノ上下ヲ着ス笛二

人皷二人太皷一人残七人下盤一人天冠ヲイタキ崩黃ノ水干ヲ着シ

七人共ニ幣ヲカタケ棹

歌ノ役也近国ヨリ集ル

墓相殿宮各出旅所相殿宮一說愛宕宮也神幸日有鉢十二本長保三年五

月九日被遷坐疫神紫野京師衆慶行御灵會例祭五月九日今時用十五日

住吉御田植

八日神田ヲ殖ル故ニ神夏アリ相傳フ神功皇后三韓ヲ

農業ノ変ヲ世ニ廣クシ玉フ後世末葉乳守ノ遊女ト成ス因テ

泉州堺乳森妓女ノ内年季明タル女三人来テ今日神田ヲ植ル

御扇回柱

八日是ハ伊勢山田太神宮ノ御田植也宝前ニテ神夏修行

ノ扇アリ是ヲ以テ田ヲ仰ク風情コナス是ヲ御田扇

今宮みか

十五日在山城國愛宕郡紫野所祭午既天王午時神輿ニ

祭午既天王午時神輿ニ

ト云九八日トイ入尼日不定下旬日ヲ撰テアリ當日称宜數輩御子羅子  
勒之神田ハ高倉山ノ岩戸ナリ東華豐宮崎ニアリ是御供田ニ御子良子  
早苗殖ルマ子ビヲナス神人祓ヲ修ス一鳥居ニテ神乐哥ヲウタヒ苗鼓  
ニテ舞フ高倉山ヲ過テ鳥居ノ所ニ至ル素襖ヲ着タル者大扇尺許ヲサ  
サケテ參詣ノ諸人ニイタカシム内宮モ内レ夏ニ御子良兒ト云ハ社  
司五位ノ娘ヲ上ケル是ハ經水ナキ内ニツキ先ツ九戈ヨリ十二戈許迨  
ナリ太神宮ヘ御供調進ノ役ニ但一人役ニ下リ候テモ不嫁一生扶持付  
候ヨシニ是ハ古ノ齋宮ノ代リナラン山田ハカリニテ宇治ニハナシ  
春ザシトテ參詣シ社内ノ小石ヲ申請テ持帰リ飼屋ノ棚ニ置ケバ鼠ノ  
害ナシトテ此石ヲ猫ト称ス九月九三日ハ秋サシトテ右ノ石ヲカヘシ  
納ム云々此祭禮ヲ神供ニモ客ニモ商物

祇園御輿洗

日洗其式神

ニモスルニヘニ世俗耳酒祭ト云トソ  
輿三基中素盞烏尊号大政所西稻田姫号少將井東竜王女号今御前神輿  
出神輿屋入拜殿少將井神輿出南門臨鴨河迎古濯河水於神輿而洗之故  
稱御輿洗今雖無其儀依  
旧而称之然後安拜殿

# 六月

## 三才門

水無月

風行月

常夏月

且月

爾雅曰六月爲且疏云六月得己則曰則且且

子余坊

補遯月

二陰浸長陽當退避補故為遯六月之卦也

以神月

卷五ニ夕立ハ猶候十月之神也

もぬねえやく  
了ん 宜家

李夏

林鐘

律○林衆鐘聚也言万物成熟種數多也

小暑

節

大暑

六月ノ中

氷室

貞治曰氷室のゆハ以月数日より九月寒氣て献

ゆるねあれども六月終日を行雪とするが今日に至

に至

氷賣

簾

竹筵ナリ暑用テ鋪之

竹夫人

抱箋

脚馬

竹几又曰竹夫人抱箋俗謂竹几夏月之夜抱之以取涼。

涼風

風薰

風の季

呂氏春秋東南之風曰薰風本書南薰トテ未申ノ風ヲ云トソ

泉

ゾゾ水ノ畧ニ水原ニ

渟水

日傘

三伏

夏至後第三庚

爲初伏四庚爲中伏立秋後初庚爲末伏金氣伏藏之日也庚者金也夏ノ火ヲ秋ノ金氣ニテ伏スルナリ

奇峯

新井

サラレキ 井ヲカヘテ暑ニ用シカヘテ暑

納涼

門涼

雲峯

襟涼

川涼

四条河原涼ハ自六月七日夜至十八日夜

涼舟

土用于

虫干

虫拂

雨乞

雪ノ字ニ

水漏

土ノ氣潤フ故ニ漏レテ濕暑トナル

暑

補極暑

補炎天

白雨

字ニ

日

富士雪消

十五

霍乱

土用

補溽暑

土ノ氣潤フ故ニ漏レテ濕暑トナル

增温風

月令

季夏之

夏隔

夏限

夏過

夏別

夏景

秋待

不來秋

等アリ

水賣

月令

季夏之

夏隔

夏限

夏過

夏別

夏景

秋待

不來秋

等アリ

夏深

夏追

夏景

秋待

不來秋

等アリ

# 六月

## 氣形門

遼雲雀 雲雀鳴 六月毛ヲカヘテ音

フ速ナラヌヲ云

羽毛ニシテ

鳴羽かす。海月取 海月取

火蛾

モトモトモト云

金龜子

蝶 小虫ニ似蝶亂飛者也尔  
稚注<sup>モロコシ</sup>壁<sup>モロコシ</sup>則風<sup>モロコシ</sup>卷<sup>モロコシ</sup>則雨<sup>モロコシ</sup>  
ニハ季夏トアリ氣候ニテハ  
五月節ヨリ六日ナルヘシ

絡線 形唐虫ノ如ク鳴虫  
ギスト云ニ似タリ

腐牛成蠻 令月

## 六月

### 草木門

ぶいく 蟬

補室採

蝉脱 モロコシモモトモト云

螢蛾

火蛾

螺蛾

燐蛾

蠍蛾

モロコシモモトモト云

蟠

ムシモトモト云

金龜子

コガネモモトモト云

百日紅

猿<sup>モロコシ</sup>猪<sup>モロコシ</sup>すづり<sup>モロコシ</sup>本名紫薇搔其皮則自動故名怕痒花和三猿滑

トハ一枝二種ナリ百日紅ハ冬葉凋<sup>モロコシ</sup>花アリ

猿<sup>モロコシ</sup>斯<sup>モロコシ</sup>ヘリハ四時

凋<sup>モロコシ</sup>花ナシ

石竹

ケレハセ<sup>モロコシ</sup>大和<sup>モロコシ</sup>子<sup>モロコシ</sup>ハ紅色<sup>モロコシ</sup>ニモ<sup>モロコシ</sup>子<sup>モロコシ</sup>

ハ色<sup>モロコシ</sup>の不<sup>モロコシ</sup>あり川原<sup>モロコシ</sup>野<sup>モロコシ</sup>子<sup>モロコシ</sup>等

海芋

和名奈万井和三慈姑具苗俗名於毛太<sup>モロコシ</sup>

加其根名白久知井草葉小白花ナリ

又似蠟燭

和名<sup>モロコシ</sup>子<sup>モロコシ</sup>河骨丘書<sup>モロコシ</sup>

花牽牛花ノ如クニメ<sup>モロコシ</sup>五瓣<sup>モロコシ</sup>ヲヒラ

花牽牛花ノ如クニメ<sup>モロコシ</sup>秋更ニ赤レ

ク橘黃色ニ細点アリ秋更ニ赤レ

櫻麻

春生苗柔莖青綠葉厚於剪羅而不円末尖六七月開

花似剪羅花而刻齒淺其色肉赤也俗說云達摩大

蒲刈

胡广の桑のみ<sup>モロコシ</sup>一補<sup>モロコシ</sup>苧<sup>モロコシ</sup>

莖<sup>モロコシ</sup>子<sup>モロコシ</sup>て状桿花のみ<sup>モロコシ</sup>

眼皮

春生苗柔莖青綠葉厚於剪羅而<sup>モロコシ</sup>不圓末尖六七月開

花似剪羅花而刻齒淺其色肉赤也俗說云達摩大

普苧

夏引の糸<sup>モロコシ</sup>櫻麻ハ<sup>モロコシ</sup>子<sup>モロコシ</sup>の様に仰ぐも<sup>モロコシ</sup>と云<sup>モロコシ</sup>

ヘ<sup>モロコシ</sup>即白麻<sup>モロコシ</sup>ヘ白麻ハ九枚<sup>モロコシ</sup>

苧<sup>モロコシ</sup>

内<sup>モロコシ</sup>麻荀<sup>モロコシ</sup>

竹皮取

師九年面壁時欲不眠自剪上下脣棄之地生  
此草其花肉赤色以為似脣因名眼皮矣

タリ

王簪

約束

周禁

十ハ微香アリ小白

花ヲ

石薺

聚品々 石薺ハ石上ニ叢生ス

其根繁シ紅花ヲ開ク

赤草

一ノ名

蕤生山沢高七八寸一莖一葉如

橐吾而蔓小夏日其莖葉為真紅

蔓草葉深綠色有

楓葉花形似鉄線花而十瓣淡青色蕡如菊本黑中白

光澤五切而微如

虎尾の芒

山

細白如穗似獸尾故名一種淺紫色亦碧色アリ

薄微似干楮葉而面青背白至風則能韻恰如反掌婆

葛の花

蔓葉

蜀葵花 可う爰 帚瀧草 葉花莖形狀頗草綿ニ似タリ冬

根ヲトリハズメ堵トバカリ季トスト

云リ帝ハ常ニ濂テ季トシカタク殊ニ夏濂ハ臭氣アリテ下品ニ堵モ種  
数アリ山楂一名ガレヒトイフナリ又山カゴト云ハ木モ皮モ桜ニ似テ

候號

者

時珍曰三月開花如柳花ト故ニ難誤抄

キニ花ヲイハズメ堵トバカリ季トスト

芒草

カリ

根

聚ハ萩ニ似テ小ニ四月ニ葉ヲ生シ枝長シ高數尺ニ過ス深山ニアリ花  
ハ萩ニ似テ黃ニ夏ノ末ニサク其皮ニテ帛ヲスク年波草ニハ楂ノ花ト  
アリ

紫蘂

藍荳

蓼藍

大如胡桃葉入秋開花紅如山茶花黃葉花序極

足深綠色  
皺点アリ

蔓艸ニ黃花ヲ開ク五出チト胡瓜ノ莖ニ似テ

蘆辨俱ニ黃ニ瓜大寸許長一二尺甚キハ三四

寸厚爲房甚纏短側相比結子大

和三木名古貝樹高過屋大如抱其技但桐其葉

大如胡桃葉入秋開花紅如山茶花黃葉花序極

如拳實中又有白綿々中有子

和三木生苗莖有細刺葉對節

生一葉五尖微似蓖麻而有細齒

八九月開細紫花成簇結子○猪殃々生山野道傍猪食之則病故名之又春

時采莖葉煮熟食之同書魚久良ト称スルモノ

和三木生苗高二三尺葉青碎作叢

草石智蟲

二月生苗長者近尺方莖對節葉有齒皺有毛四

テウロキ

本細蛇虺喜臥此艸下食其子三月生苗高二三尺葉青碎作叢

蛇床子

每枝上開白花如碎米攢簇似織狀其子黃褐色大如虱俗呼名

虫

風

蕨

增

麒麟草

莖葉似景天而小有鋸齒莖

大如馬齒莖葉亦似景天色黃也

# 六月

## 服食門

冰餅

民間饅頭  
以是比冰

一夜酒

體も小酒也  
公事にリテ送れ  
もあらハ付くも  
えサツレ司六

月餅

うり七月也  
ちり毎てある也

水飯

スイバ  
水菓子

水粉

補洗飯

干飯ふとの丸をも  
フナスルヨニ

于飯

ホシイヒ  
糒也カル浸  
冷水喫之

補引飯

アザヂサカ  
淡草酒

豊後國ノ製ナリ麻地酒也  
土カブリ也云肥後南都ヨリモ出其造法糯

米糰

米糰采等分ニ合製メ冬月寒水ヲ以テ是ヲ釀レ土中ニ埋ミ草茅ノ糸ヲ以テヨレヲ覆ヒ埋ムトニ夏月土用ニ至テ則土巾ヨリユレヲ出スニ既

ニ熟

セリ  
心太

ところどん

石花菜ヲ煮  
テ凍ト成ス

葛水

増砂糖水

切麦

冷麥

冷汁

卷冷一

夏切茶

六月始宇治茶人新茶ヲ新壺ニ盛リ常ニ茶ヲ賣處ノ良賤家  
ニ贈ル是ヲ夏切壺ト云冬開口ノ壺ハ盛夏ノ間所々山林清  
涼ノ地ニ置故ニ夏中用ノ茶先ツコ  
レヲ贈ル故ニコレヲ夏切茶トイフ  
也

老梅

梅むき

梅つけ

補梅干

梅剥ハ  
皮肉也

剥力ケ晒乾テ

梅酸トスルヘ冲縄

海辺ハ作り身ヲ潮ニテ幾度王洗ヒ酢ヲ用ヒス  
食フト云ヘト龍師ハ只夏日舟ハカラニ水亭山

館ニテモ新キヲ調スルヲ云リ

セゴレ膾ト云ハ  
鰯ヲ用ユトソ

皮剥ハ  
日蒜

瘧疫ヲ辟ル  
ナリトソ

楊梅

接小而堅其色  
初青味  
美

酸逐日紅胡紫熟而美

林檎

俗云頻  
婆果也

和三与林檎一對二種樹實皆似林檎而大有赤白青三色

李

とさう

海松

なつりそ

とさう以下が此ニハ六月年  
彼系ニハ正月にも及ぶも少  
へ古今物ニ海松ハ夏ニといひ

増和布

和布荔

于飴むく

補新干丸

香薷散

茗荷子

本名蓑  
荷ナリ

青番椒

鰯油造 醸造

酿造

奈良漬なにわづけ

増  
蘿豆

源元豆げんもんとう 本書七月ニアリ年波草

六月ニアリ今兩處へ出

## 六月

### 公式門

氷の御りの

熟月あれも御膳ごぜんノモカを用もちといふ

高宣喰

十六日

漢昭帝かくしやうていハまことに即位そくひすまつて時とき六月十六日に宋の高定こうじやう十六丈じやうを  
きて食くかと聞き人ひと御膳ごせんヲ供たまーたら供たまを踐たどる後あとも用もちひよひて毎日餅もち  
とすゝすすと又一從家じゆか御殿ごてんの六月納涼なりううの於おひに楊ヤシらの賛さんししとより起  
くくてく宋の寧宗ねいじやうの年号ねんごう十七年じゅうしあんつつきてそ年ねん每まいと嘗なきせよ。減へん  
年ねんより十六年じゅうろくねんまでの事ことあると極きわづくく日ひのりてあおう代だいミ室むろ  
トト〇〇かつうかつうととハあひて猶ゆうの訓くんに也よれや武家ぶけ之の者もの也よれとと今日きのう  
公家くわ出で家いえととも從つ侯こうあり

施朱

東洋とうようハ聖せい宏ひろ北きた近ちか西にし年ねんハ太おほを傷いたる  
也よるそぞ公こう子こ赤あか山西さんざい山やまか山やま乍さく云いふの山やま

守まもけけたためめききああたたけけああるるととままああり  
岸きしををははととままああり

近ちか朱しゆの次つぎ乃のてて弓ゆみとと弟いとてて御殿ごてんの孫まごとと候まつてて御門ごもんとと守護しゆごーーとと下くだり  
一いつ小こ監かん以下げハ弓ゆみ蓑みのとと足あしてて内うちく南みなみ殿どのの前まへののををととささくく奴やつとと雷らい  
呪の陳ちん

とと云いふ

富士詣ふじのまつり

自朔日

至北日

使ま登山さんざんの

依よ赤あか

祇園季

祇園御靈會ぎおんごりょうくわい

七日朝あさ己刻ごく大鉢だいはく六本各有稱ごうめい号ごう長

刀鉢とうはく函谷鉢かんこくはく瀆鉢とくはく鷄鉢けいはく菊水鉢きくみずはく月鉢つきはく船鉢ふなはく一基

井大神山いおおじんやま飛天ひてん神山じんやま右丰山うぶやま太子山だいしやま山伏山さんぼくやま孟宗山もんじゆうやま琴破山きはくやま白乐天山しらがくじやま郭巨山

芦茆山らぼうやま蟠螭山はんじゆやま笠鉢山かさはくやま二人花盃山はなびやま木賊山きそやま芮山れいやま岩山いわやま舟鉢合ふなはくあ十七本瓦鉢かわはく一基

本後山ほんごやま三本連行さんぽんれんぎや毎鉢長まいはくちやう十丈余じやうよ又また十四日己刻ごく許山渡きよさん弁慶山べんけいやま鈴鹿山れいりくやま觀音

山八幡山やまはちはんやま役行者山えきぎょうしゃやま黑主山くろぬしやま淨明山じょうめいやま鯉山こいやま鷹野山たかのやま船鉢ふなはく日午刻ご許三社神輿

出旅所三社之津嶋祭しのしままつり

牛頭天王社ぎゅうとうてんのうしゃ在尾張國海部郡門間庄藤波里社

神名出五月

樂アリ八日二町コト車屋くるまやニメ調乐しやうらく十三日江口えぐちニ於テ暗くろノ

試乐アリ十四日ノ胥官そくかん十五日ノ朝あさ祭まつり曼まんヲ里俗打廻うちふくレトイフ

熟田祭じゆたまつり

在尾張國年魚市郡祭いわきやまくに神五座素盞烏尊齋稻田姬命すさみのひめ日本

武尊官むそくかん賛媛さんゑん命尾張建稻種たけいのく命

竹生彦和たけうみひこ所祭宇賀御魂神うがごこんじん在江洲湖中えいしゆこちゆう例祭れきまつり六月十四日十五

日是謂法華会はつげあい湖上浮舟うきふね奏音乐そうぎょく神輿浮湖面じんよひふくめん

竹生彦和たけうみひこ

所祭宇賀御魂神うがごこんじん在江洲湖中えいしゆこちゆう例祭れきまつり六月十四日十五

日是謂法華会はつげあい

湖上浮舟うきふね奏音乐そうぎょく

神輿浮湖面じんよひふくめん

# 山王祭

十五

在江戸祭神三座国常立毎熊野王子宮氣比宮子  
子辰午申戌ト隔年神輿渡御鎮武者并遼子出ル

# 博多祭

十五

作山六基大京師祇園会之山四陪云々右ノ山次弟ニ上張リニ組上  
日テ階上九百人ヲ可令居一基ヲ引者近千人ニ充リ木偶人ニ鑑ヲキセ

テ階上ニ立テ其甲冑ニ皆姓名ヲ書顯スユエニ領主ノ家臣劣  
テレト美ヲ尽レテ出セルトソ神輿三基供奉ノ行裝亦嚴ナリ

# 志波寺祭

讃州寒河郡志波寺本尊十一面觀音六月十五日ヨリ十七  
日テ三日夜ノ間房前公ノ為ニ彼海人ノ墓所ニ於テ水

祭スト云リ此貳諸人

# 巖嶋祭

在藝州佐伯郡宮嶋祭神市杵島姫  
神田心姫神湍津姫神例祭自六月

十五日至十七日同日申刻管絃ノ船ヲ衆出レ外官ニ押渡リ酉刻ヨリ管  
絃供僧伽院等畢テ漕庚シ亥刻頃大鳥居ノ内ニ漕入近國ヨリ群參ス

# 伊勢祭禮

外宮十六日内宮十七日被行之京師ヨリ御奉納ノ神宝ヲ  
神主神殿ヘ捧ル時宮殿ノ御戸ヲ開ク是ヲ拜セントテ諸

人群參スルニ十人ノ祢宜其外廣前ニテ松明ヲ夕テ祝詞  
ヲ捧ク今日出家円頂ノ者ヲ許メ參詣ナシムト云リ

# 御靈臺祭

十七日

大坂祭神三社中太神官右源正靈神倉推五郎景政吳左八幡此大神渡御次第音  
鉄猿田彦太鼓長柄廿本鞶弓十肩先駆士幸鉢長持四神鉢御弓鍔隨身御

燈神輿大神源正神此錦蓋神馬神生六角行  
以上社說九月廿六日サハ

# 鹿頭涼

十九日 盲人納涼会アリ是

ヲ涼シト云在京ノ檢校及勾當上首一人清聚菴ニ会シ各心經ヲ轉誦ス  
眞人檢校齋應ヲ設ク六流ノ中聲者四人ヲ撰ミ平家ヲ談セシム暑氣甚  
シク且座挾キユ卫檢校ノ外勾當上首一人其以下井ニ  
遠方人來会ニ及ハス其外粗ニ月積塔ノ下ニ記ス

# 御靈臺詣

糸納涼 下鴨ノ社司六月後ヲ修ス十九日ヨリ晦日追増  
諸人參詣納涼ノ遊トス林間ニテ酒食ヲ壳ル 鞍馬竹切

九葉堂ノ前ニ根アル大竹ヲ縛リ建又大青竹ニ一本ヲ堂ノ柱間ニ縛  
日リ横法師二十人余白襷ヲ著レ山刀ヲ横一本ヲ近江ト称一本ヲ丹波ト称  
ス各十人左右ニ分列メ色ヲ擧奔走メ山刀ヲ拔是ヲ截ソノ遲速ニヨツテ兩國  
ノ豊凶ヲ占フ速ナルモノ豊ヨ得タリトス然後各ソノ竹ヲ以テ昆沙門  
堂ノ前ニ來リ段々ニ截之是釈峯延護摩ヲ修シ昆沙門ノ稻荷祭  
兜ヲ誦メ蛇自ラキレテ段々ナリシ遺意ナリ云々

日大坂上難波仁德天皇宮世人博勞稻荷ト称ルハ誤也トソ博勞稻荷ノ  
社ハ右本社ノ右ニアリ今日本社ノ祭ニ神輿ヲ下官御旅所ヘ渡ス

# 座摩祭

九二 摂州西成郡惣社座摩太神宮祭神生井神福井神細  
日 長井神右之三津井神ニ竈神ニ竈神二座名波比神阿須

ト云々當日思ヒノ遼物ヲ出ス形代ヲ流シ禊ヲ修ス  
少神ヲ加ヘ五座也今ノ天神橋一名渡辺橋在大江岸○延喜式ニ座摩社

# 橋立祭

九五

丹後切戸之文珠会同橋立祭橋立明神本

# 天神祭

九五

社豊受大神左大河大明神右八大龍王

遊船亦無比數

# 住吉御祓

晦日

今朝神輿一基到堺御旅所社司六七十員  
炬送神輿又大坂地人同点火而迎

之送迎相連恰如白晝是謂火替乎

# 住吉踊

大坂名和國弦子伎  
大村より上方へ出

了五月廿八日公見演にて踊

# 茅拂

六月ノ

後勘スヘシ

# 川社

# 大祓

# 茅拂

六月

# 御祓川

晦日

# 夏神樂

# 内桜拂

# 名越祓

# 内荒稻祓

六月

# 麻葉流

六月

# 祓艸

# 内夏祓

ミソキト云ハ素草ノ髪ヲ又足手ノ爪ヲ祓給テハラヘ黙トナシ玉フ故ニ身ヲソクト云フニ川社ハ河の瀬ニ掛ニかを

きてまを拉ニテ篠竹を柵ニかきてそれニ神像を飾上巻を川社と云○大祓ハ石炭丁々々朱雀門ニ集りて祓を一月六月十二月二日あそ○葛葉も第の輪と内くりのえ葉葛葉を以て製毛呂天社一円相の間をとらえ又より松へづり火剣令をすぬく事之○形代ハ人形ニ持

わハ人形を挾み吾身にそへて万の災殃を祓て流をねえ○名越の名ハ友の略也○荒和祓ハ首折りて主上の御内けのすはを行の貴子と云て其禮ニ於あてゞくもよきりとりよそ昔の式ニ附るの御所祓おまつるありよこよの御裝束と云々是即御祓の具ニ荒和貴の御祓とソレへきを畧一て荒和の祓とくふるや○麻糸流を増ハ麻糸を切て幣とする在ニ祓艸と云も麻のるもあり

# 加茂六月祓

紀叟六月晦日夜上賀茂神社有音乐則修祓中暑今日六月能丹波矢

田木夫勤之是謂御手代余此詠一坐七人交勤其藝故世謂七人猿乐

# 秋

秋(秋名)秋ハ明クナ。

# 少皞

帝〇月令其帝少昊金天氏注少皞補少皞神○少皞金官之臣

少皞

白精之君淮南子少昊其佐蓐收少皞氏之子譲也

# 白藏

尔雅秋為白藏注氣白而收藏萬物

# 金商

五行屬金五音屬商故有金風素商之称

曼天

字景秋

天仁覆惑下謂之是天

# 明景

秋景曰朗景

六月七月

七月

三才門

文月 えひうけ月 文ヒルカニシナリニシナリトテ文ヒルカニヒルカニ

文ヒルカニシナリニシナリトテ文ヒルカニヒルカニ

七夕月 女郎花月 夷則

律〇月令廣義夷傷則法也言金氣始肅萬物于此凋傷猶被刑戮之法

也

相月

尔雅七月為相疏七月得庚則曰望相

朞月

朞秋十月

立秋 节

けの秋 今朝の秋 初秋

補卦秋

孟秋

增涼月

月令孟秋之月涼風至

增親月

此月諸人詣親墳墓故曰親月

處暑

七月ノ中ニ處止也暑氣止息也

初涼

新ニ涼シ

井戸ノ

○雨乞

朝茶湯

朝貞ノ茶湯ノ例ニオコル

初嵐

山氣ヲ

曰嵐

二早ノ

星合

日祭

祭系江次第西北机上押金針七銀針七

件針別有七孔以五色糸溝合貫之



